

琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄関係 日米協
議委員会開催関係

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43729

不
公
表
以
復
季
長

秘 極
書

不公表

記録覚書

アメリカ合衆国大佐館長 千九百六十五年 月 日

付の同大佐館長事務 号に關し、協談委員會

の裁能を拡大する取極は、日本國との平和條約の

三條の規定に基づき琉球諸島に対する合衆國の

権利に影響と及ぼさないとの合衆国政府の見解を
日本国外務省に通報する。同大は館はまた協
議委員会の各会合の議題は、同外務省と同大は
館がそれぞれ適切な準備を行なうにせがでざるよ
うにあらかじめ十分な余裕をもつて双方の間を起
案せしめなければならぬとの合衆国政府の見解を

同外務省に通報する。合衆国政府は、さらに同委員会の討事は、合衆国及び日本国の代表者が相互に合意した新聞発表を除いて、不公表扱いとされなければならぬものと考える。

CONFIDENTIAL

With respect to its Note No. (blank) of (blank), 1965, the Embassy of the United States of America wishes to inform the Ministry of Foreign Affairs of Japan of the view of the Government of the United States that the Agreement to broaden the functions of the Consultative Committee does not affect the right of the United States over the Ryukyu Islands under the provisions of Article 3 of the Treaty of Peace with Japan.

(U.S. NOTE)

Excellency:

I have the honor to refer to the discussions concerning the Ryukyu Islands between Prime Minister Sato and President Johnson in Washington on January 12, 1965, and to confirm on behalf of my Government the understanding that the functions of the existing Japan-United States consultative Committee, as set forth in Paragraph 2 of the exchange of Notes of April 25, 1964, are broadened so that the Committee is enabled to conduct consultations not only on economic assistance to the Ryukyu Islands but also on other matters on which Japan and the United States can cooperate in continuing to promote the well-being of the inhabitants of the Islands.

I would appreciate it if you would confirm on behalf of the Government of Japan that the foregoing is also the understanding of your Government, and that the present Note and your Note in reply concurring in the understanding constitute an agreement between our two Governments.

Accept, Excellency, the renewed assurance of my most distinguished consideration.

(Japanese Note)

(Translation)

Monsieur l'Ambassadeur:

I have the honour to refer to Your Excellency's Note of today's date, which reads in the Japanese translation thereof as follows:

"(U.S. Note)"

I have the honour to confirm on behalf of the Government of Japan that the foregoing is also the understanding of my Government and that Your Excellency's Note and the present Note in reply constitute an agreement between our two Governments.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency, Monsieur l'Ambassadeur, the assurance of my highest consideration.

CONFIDENTIAL

MEMORANDUM

(DRAFT)

With respect to its Note No. (blank) of (blank), 1965, the Embassy of the United States of America wishes to inform the Ministry of Foreign Affairs of Japan of the view of the Government of the United States that the Agreement to broaden the functions of the Consultative Committee does not affect the rights of the United States over the Ryukyu Islands under the provisions of Article 3 of the Treaty of Peace with Japan. The Embassy also informs the Ministry of the United States Government's view that the agenda for each meeting of the Consultative Committee should be drawn up between the Ministry and the Embassy sufficiently in advance to permit adequate preparation by each side. The U. S. Government further believes that the proceedings of the Committee should be treated as confidential, except for press releases mutually agreed upon by the United States and Japanese representatives.

(Draft)

NOTE

Tokyo, March 1965

No.

Excellency:

I have the honor to refer to the discussions concerning the Ryukyu Islands between Prime Minister Sato and President Johnson in Washington, January 12, 1965, and to confirm on behalf of my Government the understanding that the functions of the existing Japan-United States Consultative Committee, as set forth in Paragraph 2 of the Exchange of Notes of April 25, 1964, are broadened so that the Committee is enabled to conduct consultations not only on economic assistance to the Ryukyu Islands but also on other matters on which Japan and the United States can cooperate in continuing to promote the well-being of the inhabitants of the Islands.

I would appreciate it if you would confirm on behalf of the Government of Japan that the foregoing is also the understanding of your Government, and that the present Note and your Note in reply concurring in the understanding constitute an agreement between our two Governments.

Accept, Excellency, the renewed assurances of my highest consideration.

/s/ Edwin O. Reischauer

His Excellency
Etsusaburo Shiina,
Minister of Foreign Affairs of Japan

(DRAFT)

CONFIDENTIAL

MEMORANDUM FOR RECORD

Embassy of the United States
of America

Tokyo

March 29, 1965

With respect to its Note No. (blank) of (blank) 1965, the Embassy of the United States of America wishes to inform the Ministry of Foreign Affairs of Japan of the view of the Government of the United States that the Agreement to broaden the functions of the Consultative Committee does not affect the rights of the United States over the Ryukyu Islands under the provisions of Article 3 of the Treaty of Peace with Japan. The Embassy also informs the Ministry of the United States Government's view that the agenda for each meeting of the Consultative Committee should be drawn up between the Ministry and the Embassy sufficiently in advance to permit adequate preparation by each side. The United States Government further believes that the proceedings of the Committee should be treated as confidential, except for press releases mutually agreed upon by the U. S. and Japanese representatives.

/initialed/
by Edwin O. Reischauer

CONFIDENTIAL

極秘

要字 部

発電 総第 9153 号
昭和 年 月 日 時 分

電信課長 (分類 60)

暗 略 平 第 492 号 (IR) 3-22 19-61

大臣
~~政務次官~~
事務次官
外務審議官
~~参事官~~

主管
アメリカ局長
参事官
主任 北米課長

起案 昭和 40年 3 月 22日
起案者 渡辺 電話番号 671

加詳長

在 米 武 内 臨時代理 大 公 使 宛 大臣 発
総 領 事

電 報 在 大 公 使 宛
総 領 事

件 名 協 議 委 員 会 我 能 松 大

往 電 第 463 号 に 関 し、

1. 21日 エマソン 公使 は アメリカ 局長 に 対 し、

電 話 を 通 じ、 16日 の 会 談 に 対 し、 了解 可 存

小 切、

GB-1 外 務 省 回 覧 号

真

22 寧 濟

(1) 米(北)の秘密受書等は、米(北)の立場を
明白にするべきを要図したものであり、協談
委員会^二の討議内容を制限しようとするもの
ではない(但し施政取返還問題除外の旨が頭紙に記す)

(2) 従って、協談委員会の各会合前、日本内
の予備的討議においては、あらゆる問題を
取り上げることには要すはなからず、

その2点を國務省から確認してまた旨通報
越した。



2. 22日 ラインワー文(または 本大臣と来訪の際
協談委員の機能拡大の範囲)について、^{ゲン}現社の
段階では loose definition にておぼえおき
実際の運用の経験を通じ、最も妥当なところ
を見出しに行くことが望ましいと考える。これは
は結局 共同声明の文言のくり返しになる
が、問題は、機能とどの程度拡大するかよ
り、機能拡大により せいかほど有益な成果
を挙げ得るか否かと見うとすべき。

極秘

要写部

発電係 村田 総第 9528 号
40-3-25 19-22
昭和 年 月 日 時 分 発

電信課長

電信案

(分類)

略 略 平 第 518 号 (L) 40-3-25 19-21

大 目
政務次官
事務次官
外務審議官
官 房 長

主管
アメリカ局長
参事
主任 北米課長

起案 昭和 40 年 3 月 25 日
起案者 渡 電話番号 671

在 米 武 内 臨時代理 公使 宛 推 大臣 発
総領事

電 報 在 大 公 使 宛
総領事

件 名 協 試 委 員 会 材 能 依 大

5 寄 濟

GB-1

外務省

回覧番号

~~CONFIDENTIAL~~

With respect to its Note No. (blank) of (blank), 1965, the Embassy of the United States of America wishes to inform the Ministry of Foreign Affairs of Japan of the view of the Government of the United States that the Agreement to broaden the functions of the Consultative Committee does not affect the right of the United States over the Ryukyu Islands under the provisions of Article 3 of the Treaty of Peace with Japan.

極秘

要字 部

発電係 総第 9649 号
昭和 年 月 日 時 分 発

電信課長

電信案 (分類 3-25 20-56)

略平 漢 第 517 号 (LPT)

大 臣
政務次官
事務次官
外務審議官
審 房 長

主管
アメリカ局長
参事官
主任 北米課長

起案 昭和 40 年 3 月 25 日
起案者 渡辺 電話番号 671

条約局長
条約課長

在 米 武 内 臨時代理 大 公 使 宛 権 名 大臣 発
總 領 事

電 報 在 大 公 使 宛
總 領 事

件 名 協 談 委 員 会 機 能 拡 大

2
70
字
請
住 電 第 492 号 に 関 し
25 日 午 前 安 川 ア メ リ カ 局 長 は 在 京 米 大 使 館 エ マ
ソ ン 公 使 の 來 訪 を 求 め 要 旨 次 の と お り 会 談 し
た。

協定草案の採決
12月2日の閣内閣令の
各 項を詳述せよ

1. アメリカ局長より、昨日 協理に会った⁽¹²⁻³⁾ 協
理は、米側の施政権をケレンビの身はないが
日本の潜在主権^(や)、住民が日本国民であること、は
米國政府を認めうるものであるから、日本側が
住民の安寧に影さうの^{(固) (2) (2) (2) (2)} 問題について見
解を表明するのを^(然) 米側を備くべきである。

ジョンソン大統領^(も)、住民の安寧に影さうの^(も) 問題と
~~全~~ 問題を協議したと語っていたと云われ

米側が、今回の覚書で、施政権を reconfirm
してきたのは、^{米子側は12月4日の協定の協議に於て} 協議等が動かざるべき問題を利
済極端な態度を示すもの^(然) 限らざる^(然) 原因^(然) ではないかと~~懸念~~ ^(懸念) を表

明に述べたところ、エマソン公使
は、米側⁽¹²⁻¹⁸⁾ 協理の懸念に述べらるる原因^(然)

はないとして、従来からの説明をくりかえし、
たの^(然) あり^(然) たる^(然) 米子側の意向を確固の上同答を約し、
~~事~~ ^(然) 協理を reassure する^(然) こと

直接

~~日米交渉の一大項目として、先方は、合衆国の等
格な地位を日本に与え、これに基き、わが国に有利な
米穀の輸入の再確認を求めたいと述べ、先方は
わが国は、この米穀交渉の意向を推して、わが国
と交渉した。~~

2. 次に、当方より、米側の秘密貿易案第一文
につき、若干の修正を提議したいとして、別電第
号を授けし。これは内容の変更ではなく形式と
整えようとするものである。尤も、これが、国防、国
防両者間で、~~長期の~~問題に発展するようにな
り調整に時間がかかる
てゐるから、わが国としては、これに固執したいが、
この方が改善であると考へて述べたところ、先
方は、検討を促した。

なお、当方より、内々に答へて、先方は、この
案書には、日本側の意図は分るやうな旨確
認した。

米側意図の

3. 最後に、当方より、上記の論議に好む再

(公文交換の手続きを以てとし)

確認が得られ次第、本件に決着をつける
旨述べた。

極秘

要写部

発電係 村田 総第 10357 号
昭和 40 年 3 月 31 日 19 時 41 分 発

電信課長 (印) 電信案 (分類)

暗略平	第 547 号 (LPP)	起案 昭和 40 年 3 月 29 日
大臣 政務次官 事務次官 外務審議官 官房長	主管 アメリカ局長 参事官 出陽中 北米課長	起案者 電話番号 村田 671

主任 条約課長

在米 武内 臨時代理 大(公)使 宛 権者 大臣 総領事

電報 在 大(公)使 宛 総領事

件名 協成委員会の機能拡大

往電第 517 号 および 第 518 号 に関する

1. 29 日 エマソン公使よりアメリカ局長に社

不公表 秘書覚書案により、往電第 518 号の日本

案の "right" を "rights" と複数形にする

GB-1

外務省

回覧番号

2613

31 76



これを条件に日本軍と受諾^{する}~~する~~旨の国訓
に接したと連絡越したのに対し、わが方も、
右修正に同意する旨を回答した。

2. 往電第517号3に7月27日ライヤリ
一大将の黄田次官に対し、自分たても、また本
国政府も、総理と全く同意見であり、新しい
協談委員会では、なんでも互に率直に話し合
うべきであると考えている旨述べた。

3. 以上により、米(米)政府の考えは明らか^{となり}~~なり~~、
総理の承諾を得た^{こと}~~こと~~、
~~たこと~~ 4月2日の国訓に^{交換公}~~交換公~~
文^付~~付~~し(往電第449号米側等のとおり)を^{決定}~~決定~~
し、^不秘密^に受書は、米(米)側が一方向に出すそ
のであるが、国訓にも提出(ないこととした。) 国
訓終了直後、本大臣とライヤリ一大将との間^書~~書~~
簡文の交換を行なう予定がある。

極秘

要写部

発電係 総第 10532 号
昭和 年 月 日 時 分

電信課長 (分類) 電信案

略平	第 555 号 (12) 4--2 18-48
大 目 政務次官 専務次官 外務審議官 官 房 長	主管 アメリカ局長 参事官 主任 北米課長 起案者 渡辺 電話番号 671 起案 昭和 40年 4 月 2 日

条約課長 下 水

在 米 試 办 臨時代理 公使 宛 推 名 大臣 發
総領事

電 報 在 大 公 使 宛 總 領 事

件 名 協 議 委 員 会 機 能 拡 大

往電第 547 号に因り

2日午前10時45分 本大臣とラベヤウ-大は

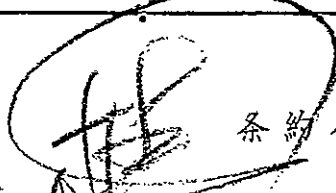







大 同 様 書 簡 を 交 換 し た。 交 換 に 先 立 ち、 米
 大 使 入 次 官 五 郎 宮 崎 氏 在 任 中、
 此 外 不 公 表 覚 書 と 送 達 表 成 し た。

GB-1 外務省 回覧山号 2619

2 72

交^政書簡及び不公表^{の事}定書 ~~手紙~~ 送可。

極秘

大臣  条約局長  アメリカ局長 
 事務次官  参事官 
 外務審議官  条約課長  北米課長  X

協賛委員会の特能拡大を定める交換
 書簡に関する米側不公表覚書について

(40.4.2)
 米比

権名大臣とライシャワー大使との間で

本2日交換された沖繩に関する日米協賛委員会の特能の拡大を定める書簡については、その解釈に関する

米側の不公表覚書を送達越前と、及びその覚書自体の解釈について、日米間に話し合いも行なわれた

については、(送達より ~~経~~ 連絡のため) であるが、本2日前本件書簡の交換に先立ち、ライシャワー大使より黄田

次官及び事務次官と、兼ねて日米間で合意された

おりの内容の非公表覚書を送達越した。(要簡
及び覚書の写別添)

なお、本件非公表覚書は、米(知)が一方向的
に受取ものである。日本(知)からの送簡を必要と

しないものであることについては、日米間で了解不
明である。

極 秘
封

Tokyo, April 2, 1965

CONFIDENTIAL

Dear Mr. Minister:

With respect to the Exchange of Notes of April 2, 1965, relating to the broadening of the functions of the Japan-United States Consultative Committee concerning the Ryukyu Islands, I am transmitting herewith for the records of the Ministry of Foreign Affairs a Memorandum for the Record concerning the Embassy's Note No. 895. The substance of this Memorandum was communicated to the Ministry on a previous occasion.

Sincerely,



Edwin O. Reischauer

Enclosure:

Memorandum for Record

His Excellency

Takio Oda,

Vice-Minister for Foreign Affairs,
Ministry of Foreign Affairs,
Tokyo.

CONFIDENTIAL

極 秘
~~秘~~

CONFIDENTIAL

MEMORANDUM FOR RECORD

Embassy of the United States
of America
Tokyo,
April 2, 1965

With respect to its Note No. 895 of April 2, 1965, the Embassy of the United States of America wishes to inform the Ministry of Foreign Affairs of Japan of the view of the Government of the United States that the Agreement to broaden the functions of the Consultative Committee does not affect the rights of the United States over the Ryukyu Islands under the provisions of Article 3 of the Treaty of Peace with Japan. The Embassy also informs the Ministry of the United States Government's view that the agenda for each meeting of the Consultative Committee should be drawn up between the Ministry and the Embassy sufficiently in advance to permit adequate preparation by each side. The United States Government further believes that the proceedings of the Committee should be treated as confidential, except for press releases mutually agreed upon by the United States and Japanese representatives.

EdR

CONFIDENTIAL